

会いたい

という感情の泉で溺れたい

息もつかずに

真っ直ぐな眼

ドキリとした

忘れていた感覚が蘇える

光のない闇の中で

下を向いて歩いていたら

希望の鍵を見つけた

わたしはそれを拾い

投げ捨てた

出来るだけ遠くへ

誰の眼にも触れないように

くしゃ 蟋蟀を踏み潰した 月が赤い 耳鳴りがしている 生きるだけを言う 空気が薄い

ただ歩く

雪が舞い

目の前に壁を作る

苦しくて

息が出来ない

噴水

かじかむ手

爪を立て

噛み千切る

噴き出す

空へ向かって

それでも日は昇る

打ち続けた

すべて尽きるまで

狂おしい

未来が見えない

朝日が昇る

パンを食べた

赤いワインを口に含む

扉が開く

つぎはぎだらけの顔

強く望む

赤き野望

凍えるような寒さの中

ひたすら歩いた

帰る場所などあるはずもなく

血塗られた手で

右目を抉り取り

舐めた

子供を潰した

右手に力を込め

鮮血

心が開放されていく

増殖する闇に向かって

食す